



札幌市長
上田 文雄

戦略的な国際交流施策の 推進に向けて

札幌市は、約140年前の開拓当初から、多くの外国人技師を迎えてまちづくりを進めるなど、古くから海外と深い関わりを持つ街です。1972年には冬季オリンピックを開催し、それ以降も数多くの国際イベントを開催するなど、魅力と活力あふれる世界に開かれた国際都市を目指して地域の国際化に取り組んできました。現在では、毎年多数の外国人観光客を受け入れているほか、1万人近い外国人市民が居住しており、地域の国際化に向けた施策へのニーズはますます高まっています。

札幌市では、これまでも、米国・ポートランド市、ドイツ・ミュンヘン市、中国・瀋陽市、ロシア・ノボシビルスク市と姉妹友好都市の提携を行い、4都市との幅広い交流を通して相互理解と友好を深めるとともに、経済や文化など都市の特徴に合わせた交流を積極的に推進してきました。

2010年には、東アジア地域との交流の重要性が増す中で、韓国の都市との交流も活発になり姉妹都市提携の機運が高まりつつあったことから、2003年以来、経済分野や市民レベルの交流を進めてきた大田（テジョン）広域市と姉妹都市提携を行ったところでした。以後、職員の相互派遣や、距離の近さを活かした市民間の相互往来など、活発な交流を積み重ねております。

また、ドイツ・ミュンヘン市との姉妹都市提携40周年にあたる今年、札幌市代表団がミュンヘン市を訪問し友好を深めたほか、エネルギー施策の参考とするために、再生可能エネルギーを利用した先進的な発電所等の視察を行ってまいりました。両市にはビールと共に発展してきたという共通点があるため、姉妹都市提携40周年を契機として、ミュンヘンのビール文化を参考に、札幌らしいビール文化を発展させていきたいと考えております。

さらに、札幌市独自の海外ネットワークとしては、今年で30周年を迎える「世界冬の都市市長会」があります。これは、「冬は資源であり、財産である」というスローガンのもと、冬の技術やまちづくりを学び合うため、札幌市の提唱によって誕生したもので、現在では、世界9か国20都市が会員となり、それぞれの都市の知恵と経験を共有し、お互いのまちづくりに活かすため、2年に一度、市長会議を開催するなどの活動を行っております。

札幌市では、これまでに培ってきた多様な国際交流の実績や海外ネットワークを基礎として、寛容性と進取の気風から育まれる札幌の特色を活かし多文化共生の地域づくりを進めていくとともに、急速に進展するグローバル化への対応や、成長著しいアジア地域との関係強化などを戦略的に進めていこうと考えております。